
僕の携帯小説は面白くない

マンチキン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の携帯小説は面白くない

【コード】

N8604X

【作者名】

マンチキン

【あらすじ】

ふとした切っ掛けで携帯小説の執筆をはじめた「僕」。自身が描く「面白くない」作品と向き合う中で、本当の自分を知る。

自分が誰にも必要とされない凡人で、空っぽという事実。

その現実の中で「僕」は。

誰にも必要とされない人生（前書き）

初投稿です。今まで読み専でした。
うまくやっていけるよう頑張ります。

誰にも必要とされない人生

「僕の携帯小説は面白くない」。

ただ、それだけの事実が心を抉る。

誰にも必要とされず、認められず、そこにあるだけ。自分の人生とて同じだった。何も無かった。

切っ掛けは一カ月前、ふと大学に迎う電車の中で、広告を見かけた。

「大人気携帯恋愛小説、映画化決定！」

くだらねえ。そう思った。もとより小説など読む性分ではない。

あるいは嫉妬心があったのかもしれない。

消費者から創作者への脱出に成功し、世間に認められた顔も知らぬ作者に。

だからか、書いてみようと思った。だってそうだろう？

携帯電話。僕だって持つてる。言葉も人並みに話せるし、文字を打ち込む指だってあるんだから！

間違い。これは間違いだった。

とんでもない勘違い。ナメた発想。それに気付くのにそう時間は掛からなかったし、気付いた時には手遅れだった。

ずっと自分を特別だと思っていた。何を成し遂げたわけでもなく、積み上げたわけでもなく、一切の根拠なく。内心では特別だと、いつか凄いことをやってのけられるんだと思っていた。

勘違いだ。創作物は鏡のようなものだ。僕は空っぽだ。知りたくはなかった。

より僕が核心に迫ったのは、「小説家になろう」という投稿サイ

トに出会ってからだった。

僕はクズだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8604x/>

僕の携帯小説は面白くない

2011年10月23日20時17分発行